

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0895500023		
法人名	社会福祉法人 青洲会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 どんぐり倶楽部	ユニット名	-
所在地	〒300-2302 茨城県つくばみらい市狸穴1072-46		
自己評価作成日	平成27年 9月24日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2015_021_kihon=true&JigyosyoCd=0895500023-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年11月12日	評価機関 決済日	平成28年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご自宅での生活を継続できるよう、3つのサービス（通い、泊まり、訪問）を柔軟に組み合わせ、支援しています。ご家族が午後から夜にかけてのお仕事のため、午後から来て頂き、夕食を食べ、家族の迎えまで過ごす方、通いの準備が出来ないため、迎え時準備をお手伝いし来所いただく方、独居で薬忘れがある方は電話をして飲んで頂き、薬カレンダーを来所時一緒に作成する利用者様もいらっしゃいます。訪問も1日平均8件ほどあり、食事の用意や着替えの促し、服薬確認、安否確認などがあります。ご家族の体調不良やお疲れで介護が出来ない時は、急遽でも泊まりを利用して頂き、休んで頂くようにしています。隣にデイがあるため、デイの方と交流も多くあります。その場合も無理にお勧めせず、カラオケやレクはご希望を伺って参加して頂いています。耳や目に障害がある方もいるので、みなさん同じ内容ではなく、日中の過ごし方は出来るだけご本人に決めて頂き、ゆったりと過ごせるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は閑静な住宅地に立地し、近隣には自治会館や保育園があり、日頃から挨拶を交わしたり清掃活動を行うなど、地域の一員として交流している。
開設時に全職員で考えた理念「住み慣れた地域やなじみのご自宅での生活が継続できるように支援いたします」にそって、利用者の在宅生活をチームワークでさまざまな工夫をしながら支援している。
一人暮らしの利用者が多く、通いや訪問などで柔軟に対応し、在宅生活を支えている。
事業所内で映写機による映画会を開催し、利用者に喜ばれている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定例会の時に、折にふれ説明するようにしている。小規模の玄関に置き、みんなの目の触れるところに置いている。ご利用者の対応などで困った時は、理念に立ち戻り、話し合いを行っている。	開設時に全職員で話し合っただけで地域密着型の意義を踏まえた理念を作成し、玄関に掲示するとともに月1回の定例会で共有している。利用者の対応に困った時には、理念に立ち戻って話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（もちつき大会、流しそうめん）に参加している。隣の保育園の運動会に見学に行ったり、保育園から来て頂き、クリスマスにダンス発表をしてもらうこともある。	近隣の保育園児が来訪してダンスを披露してくれたり、運動会の予行練習や自治会館での餅つき、流しそうめんに招待されるなど、日常的に交流している。隣接する同一法人3事業所合同の夏祭りでは、地域住民の参加を得ているほか、一人暮らしの利用者が、体操教室に参加できるよう近隣住民の協力を得ているなど、利用者が地域の一員として生活して行けるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者教室を開催し、介護に悩む方にご参加頂いている。介護する方同士で話すだけで、ホッとされる方も多い。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度実施し、地域の方やご利用者ご家族から意見を頂いている。会議の最後には、参加者にアンケートを記入頂き、ご意見を頂いている。その意見から運営に生かせるよう取り組んでいる。	運営推進会議では家族等の代表や市職員、民生委員、職員が出席して2ヶ月に1回開催し、議事録を作成している。事業所からは運営や空き状況、利用者の生活の様子を報告するとともに、委員から出た意見等を運営に反映している。会議終了後にも委員にアンケートを実施し、意見等を汲み取る工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃よりご利用者のことで相談に乗って頂いている。介護者より「もう介護できない」と相談された時は、市役所、地域包括支援センターの方にも入って頂き、今後のことを相談した。	市担当者が毎回運営推進会議に参加しているほか、管理者は市に出向いたり、電話等でも事業所の状況を報告するなど、日頃から協力関係を築いている。 在宅での介護に不安がある家族等の悩みを相談したところ、地域包括支援センターを紹介してくれ、センター職員と一緒に家族等の相談に対応してくれたことで、家族等の不安が取り除かれたなど、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会にて身体拘束についての研修を全員参加の上で行ない、意識向上に努めている。夜間以外玄関の施錠はせず、外出希望には出来る限り対応している。時には、暴力的になるご利用者についても、ご本人の気持ちや安定する介護を心掛け、身体拘束は行っていない。	職員は身体拘束排除に関する内部研修を全職員で年1回行っており、禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 日中は玄関を施錠せず自由に行き来ができるほか、利用者の外出希望に出来るかぎり対応し、支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	訪問時や送迎時に、家やご利用者の様子を確認し、情報の共有を行っている。自宅で昼食が用意されないご利用者がいたが、配食弁当の利用を勧め、現在ご利用になっている例もある。精神的に家族が介護が難しい状態の時は、3週間ほどの泊まりを利用してもらい、負担の軽減を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	両制度ともご利用になっているご利用者がいるため、定例会等で説明している。日常生活自立支援事業の方は、ご利用者がお金を預かってもらう必要性を理解できないことがあるため、訪問時などに説明をして理解して頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まずはパンフレットで概要を説明し、その後重要事項で説明を深め、次に契約書の説明と時間をかけて行っている。訪問時、不明な点がないか伺っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、アンケートを実施し、意見を反映させている。外出先などは、ご利用者との話の中で出てきた、「花を見たい」「うなぎを食べたい」を反映させ、実施している。頂いたご意見は結果をまとめ、ご利用者に配布させて頂いている。	利用者からは日々のふれ合いを通し、家族等からは運営推進会議や送迎時に意見や要望を聴いている。 無記名のアンケートを実施し、家族等の思いを汲みあげ、定例会で検討して運営に反映している。 「送迎時に玄関の扉が開いていても、インターホンを押して欲しい」との要望に全職員が周知徹底して行うなど、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会でも聞いているが、大勢の中では話づらいこともあるため、春と秋の面接時に1人1人と向き合い、意見や提案を聞くようにしている。「訪問が増え、車が不足している」との意見があり、利用できる台数を増やしたこともある。	管理者は申し送り時や日常の会話、定例会時に職員の意見や要望を聞く機会を設けるとともに、年2回個人面談を行って職員が意見や提案を気軽に話せる関係づくりに努めている。 曜日によって利用者の数にバラつきがあり、安全面等の不安があるとの意見を受け、職員の勤務体制を考慮したり、家族等に利用日の変更をお願いするなど調整し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	春と秋の面接で各自目標を立て、それに向けて努力する体制を整えている。人員不足は常にあり、1時間の休憩も難しい時があるが、管理者も交替で入り、休憩は1時間とれるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時の経験や資格によって、教育計画をたて、新人には日々の日誌をつけてもらい、教育の進み具合を確認している。在職者も、グループで研修の年間計画があるため、レベルに応じて参加するように勧めたり、希望者を募り、勤務の調整を行っている。また、定例会では、ミニ講座を毎回実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のケアマネ会の定例会や勉強会には、積極的に参加し、事例検討会にも参加させて頂いている。又、近隣の事業所からの訪問や見学には、いつでも対応できるようになっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	既にいるご利用者との間に入り、会話を盛り上げ、顔見知りになって頂くよう努めている。認知症の方が多いため、席にはこだわる方が多い。ご利用者のささいな言葉に耳を傾け、落ち着く席を探り、案内できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者の訪問時や普段の送迎時に、こちらでのご様子をお伝えし、不安なこと等を伺うよう心がけている。連絡ノートには、何をしたら、どのような表情があったかを心配なさない程度に、お伝えするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の段階で、ご利用者は何を必要としているか、こちらで提供できるサービスは何をどれくらいかをはっきりと示し、検討して頂くようにしている。ご利用者が期待しているイメージと食い違う時は、正直にお伝えし、他のサービスの検討もお勧めしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	農作業が得意な方には、草刈や花壇の整備をお願いすることもある。ご利用者に若い職員が教えてもらうことが多い。縫い物は最初の指導をすれば、職員より真っ直ぐ縫えるご利用者が多くいて、布巾をたくさん作って頂いている。塗り絵が得意なご利用者が、他のご利用者に指導していることもある。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時に会話が盛り上がり、自分からあまり話さない方が「奈良漬はうまい」と饒舌になったことがあった。送迎時ご家族にお伝えしたところ、「〇〇屋のがおいしいの」と盛り上がり、「今度食事に出してみますね」と喜んで頂けた。わずかな変化でも、様子をお伝えするように心がけている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所で実施している体操教室に参加継続できるよう、近所の方に施設での様子をお伝えしている。独居を心配されていたが、当施設をご利用になることで、通いと訪問で施設で週5日安否確認を実施、近隣の方はそれ以外の日を安否確認するよう心がけてくださっている。	利用者の知人が来訪した際には、お茶を出して接待するほか、利用者が馴染みの店で買い物をする際に付き添うなど、馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援している。 隣接するグループホームや通所介護事業所と行き来をして利用者同士の馴染みの関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	3つ食卓があり、自然とグループに分かれることが多い。孤立しそうな利用者様が居る時は、席を変えたり、職員が間に入り、その方の得意なことをすることで、自然と溶け込めるよう心がけている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	登録解除後も、電話で様子を確認するよう心がけている。胃ろうを勧められ、悩んでいるご家族の話聞き、現在のケアマネジャーに連絡をとることもあった。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望をはっきり言えるご利用者ばかりではない。一緒に時間を過ごすことで些細な言葉や反応から本人の気持ちを考えるようにしている。「家に帰りたい」という思いが強いご利用者は多いが、「家に帰ってどんな時間を過ごしたいのか」を検討し、当施設でその時間が持てるよう心がけている。	職員は利用者の基本情報から生活歴や思いを把握するとともに、日々の生活の中で利用者の仕草やつぶやきなどから思いを汲み取るほか、家族等から話を聴いて把握に努めている。 利用者の担当職員を決め、月間報告書を作成して全職員で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前の利用施設から情報を頂くようにしている。ご本人からは馴染むまで出てこないことも多い。送迎時等に急に話しだすこともあるため、スタッフからの報告を集め、周知し、ケアに生かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人やご家族からお話を伺い、現状の把握に努め、泊まり時の部屋の配置や、通い時の過ごし方に生かしている。特に行えていることの継続が出来るように働きかけや見守りを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成した介護計画は、スタッフ間を回覧し、全員から意見をもらい、再度修正し、改善に役立っている。担当者会議でのご家族やご本人との話し合いや、送迎時等の意見も反映するよう努めている。	介護支援専門員が作成した計画案について、全職員で話し合うとともに、利用者や家族等、医療関係者の意見を考慮しながら修正を加えて介護計画を作成している。 毎月モニタリングを行い、全職員が出席する6ヶ月毎の検討会議で見直すとともに、利用者の状態に変化があった場合は、随時介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録につけるのはもちろん、定例会ではご利用者全員について最近の様子を報告し合い、日々のケアに生かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日中は家族が留守でも1人で過ごせるが、夜間が心配というご家族からの意見に対応し、夕方からの泊まりを実施、朝早くに仕事に出かけるご家族からの要望で、7時から来所で朝食をこちらで実施したりしている。送迎など可能なところはご家族にお手伝い頂き、その方に合わせたサービスの組み立てをする事で、在宅生活の継続につなげている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高次脳機能障害の若いご利用者は、近所の友人が時折外出に連れ出してくれ、散髪や買物に同行して下さっている。社協からの月に1度の配食と配達ボランティアさんとの会話を楽しみにしている方もいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	独居の方が血圧の薬を朝、寝る前と服用されていたが、寝る前に飲むのが難しく、ご家族と主治医とで最近の体調も含め検討して頂き、朝のみに変更、分包化して頂いた。	かかりつけ医への受診は原則家族等が付き添うが、困難な場合には職員が付き添っている。連絡帳を通して通いサービスや訪問サービス時の健康状態や自宅での状態を記載することでお互いに情報交換し、共有している。受診結果や服薬変更などの情報は、個人記録に記載して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	来所時の体調不良や、皮膚の状態など看護職員に報告、受診すべきか等の判断を仰ぎ、ご家族や訪問看護師に報告、相談している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	蜂窩織炎で入院したご利用者は、相談員を通して予防方法を教えて頂いた。もともと自宅では椅子で寝ていて、入浴も出来ていなかったこともあり、横になって休むこと、清潔を保つことを施設・自宅両方で気をつけ、その後の様子も病院へ報告した。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	計画作成担当者の訪問時に今後のリスク等について話し、今後のことを話し合うようにしている。小規模登録中は利用できない、訪問入浴や訪問看護等についてもご説明し、様々な方法があることを提示できるように努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の対応方針を作成し、事業所でできないことを契約時に利用者や家族等に説明し、同意を得ている。 看取りに関するマニュアルを作成しているが、研修を開催するまでには至っていない。	重度化や終末期に関する内部研修を行うなどして全職員で共通理解を図ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、勉強会を定期的に行い、特に新人は必ず参加するよう義務付けている。定例会等でも持病があるご利用者について、どんなリスクがあるか話し合うようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、消防署協力のもと、防災訓練を実施している。夜勤者一人だけの時の訓練も実施、出来るだけ早く応援を呼ぶため、夜間用連絡網を使用し、普段から各職員が確認をしている。	夜間想定を含む避難訓練を年2回実施し、訓練までに改善を行っている。 避難訓練に地域住民の参加を得るまでには至っていない。 災害に備え、食糧や飲料水、毛布、簡易コンロなどを備蓄している。	避難訓練への地域住民の参加を運営推進会議などで呼びかけ、災害時における地域との協力体制の構築を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定例会で言葉かけについても検討を行い、慣れ親しんでも慣れ過ぎてはいけないと全職員で気をつけている。意思表示がはっきりできない方でも、ご本人の様子を見て、今何を希望されているか考えるように努めている。	職員は定例会などで、日頃から利用者に対する呼び方や言葉遣いに気を配るように話し合い、実践している。 排泄誘導の際に周囲に気付かれないように小声で話しかけるよう努めている。 個人情報に関する書類は、事務室の施錠できる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「何がしたいですか？」と聞いても返答が難しいことがあるため、何事も「どちらがいいですか？」と話しかけ、自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	折り紙を毎日の作業と思われているのか、日々鶴を折っているご利用者がいる。鶴を折りたいという思いは受け止め、邪魔はしないようにするが、活動もして頂きたいため、顔が上を向いている時をねらい、カラオケや屋外での活動へお誘いしている。今は塗り絵がしたいと言われ、熱心に塗り絵に取り組まれている方もいるが、一息されたところに声をかけ、農作業などで活動する時間も設けるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘルパー訪問の際に来所時の衣類についても相談に乗り、ヘルパーと共に準備するご利用者もいる。気に入ったシャツを毎回着てくるご利用者には、「今度は違うのも見たい」と声をかけ、交換するよう促している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自分から話さない方でも、野菜の皮むきは得意だったり、大根おろしなど力があることは男性に頼んだりご利用者によって実施内容を変更している。昼食前後にメニューについても話し、旬のおいしい食べ物などについて会話するようにしている。	朝食と夕食は、宿泊の利用者と一緒に献立を考えて作っており、昼食のおかずとご飯は宅配業者を利用し、汁物は利用者と職員で作っている。利用者は野菜の皮むきや盛り付け、配膳、洗い物、食器拭きなどを職員の支援を受けながら行っている。利用者と職員と一緒に和やかに食事をしている。季節料理や手作りおやつ、外食などで、食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	来所時、入浴後、食事時、おやつ時など定期的に水分補給するよう気をつけている。出しても飲まない方もいるため、スタッフが促して、介助することもある。夏はOS1を看護師の指導で手作りし、水分補給を促すようにした。なかなか食事摂取が進まない方も、好みの食べ方を探り、女性の食事介助や梅干と一緒に食べる可能性があることに気づき、実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ持参を勧め、食事後にブラッシングするよう促している。独居の方が自宅で入れ歯を全く洗浄していなかったが、来所時毎回洗浄を促したところ実施するようになり、自宅でも入れ歯を水につけるようになった。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方のパターンにあわせ、トイレ誘導を行い、失禁を減らすよう心がけている。時折失禁していることがあり、確認が必要だが、トイレを見られたくないご利用者は無理に見ず、入浴時に確認、交換するようにしている。	排泄チェック表を活用したり、排泄サインを見逃さずに声かけすることにより、利用者がトイレで排泄できるように支援している。家族等にも連絡帳に排泄状況を記載してもらい、自宅での排泄パターンを把握するように努め、排泄自立に向けた支援を行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のカレンダーを全員実施、ご家族とも情報を共有し、便秘の様子を確認するようにしている。その方にあった、運動への働きかけや水分摂取の促しを心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中に入浴したい方は午前中に実施したり、おっくうがる方は親しい方と一緒に誘ったりしている。お一人での入浴を希望される方には、個室もあるため、そちらのご利用を勧めている。	入浴は毎日でき、午前中や夕食後の入浴も可能になっており、事業所の個人浴槽や隣接する同一法人の通所介護事業所の大浴場使用など、利用者の希望で選ぶことができる。 家族等からお裾分けしてもらった柚子を利用して、季節を感じながら入浴できるよう工夫している。 入浴を拒む利用者に対しては、職員や時間などを変えて無理なく入浴ができるように誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	泊まりをご利用頂く前に、ご自宅での寝具の状況を確認し、出来るだけ近い状態で休めるようにしている。個室が苦手な方は障子越しに職員の動きが分かる部屋へ案内したり、家でしばらく椅子で寝ていた方は、布団の頭の部分を上げて休んで頂き、だんだんと下げるようにしていった。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は、説明書をコピーし、スタッフ全員に周知している。定例会では、薬について特に注意が必要な方の周知と、持病に対するリスクも周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	休みがちだったご利用者には、得意な写真を持参してもらい、みんなで鑑賞会を行い、来所につなげている。ハーモニカが得意なご利用者には、時に演奏会をしてもらい、そのハーモニカに合わせ、みんなで合唱することもある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	独居のご利用者で買物を楽しみにしている方には、週に1回一緒にスーパーへ同行している。普段はほとんど歩かないが、スーパーでは欲しいものを捜し、どんどん歩かれる。スーパーへの同行は現在3名の方が実施している。その他の方も、年に何度か、花見や外食に参加できるよう企画を立てている。	天気の良い日には、事業所周辺を散歩したり、近隣スーパーでの日用品や食材の買い物に職員と一緒に外出している。 利用者の希望で花見やうなぎを食べに出かけたり、年間外出計画を立てて、つくば市や守谷市方面に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーへ同行している2名の方は、自分で購入する物を選び、自分で支払いを行っている。もう1名の方は、お金の管理は難しいが、購入する物を選ぶよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	独居のご利用者からは、在宅時電話にて困りごとの相談もある。郵便はポストまで同行し、出してもらったり、ヘルパーが代行して出すこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度を確認し、必要に応じてエアコンや窓を開けての換気と使い分けしている。トイレは誰が見ても分かるよう、「便所」の貼り紙を貼り、スタッフに聞かなくても誰でも行ける様にわかりやすくしている。掲示板には、ご利用者作の写真や、塗り絵、貼り絵などを、季節に応じて作成し、貼っている。散歩時摘んだ花を、生けることもある。	居間兼食堂には湿度計を置いて換気や採光等に配慮するとともに、中央には台所が設置されている。 中庭に面したガラス戸からウッドデッキに自由に出入りができるほか、植栽された庭木から季節を感じるができる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人の空間を大事にしたいご利用者には、テーブルから離して、他ご利用者から距離をとれるソファを用意したり、一つのテーブルに大勢のご利用者が集まってしまう時は、テーブルをくっつけて大きくしたり、と必要に応じて対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの部屋は寝具、タンス以外の物は置かず、時計など必要なものがある方には家から持参してもらっている。危険にもつながるので何も置かないようにしていたが、「寂しい」という意見もあったため、ご利用者作成の花の貼り絵を壁に貼っている。	居室にはベッドやエアコン、トイレ、洗面台が備え付けられている。 事前に利用者や家族等に、洋室か和室、ベッドか布団の希望を確認し、選べるようになっている。 置き時計や電気毛布など、使い慣れた物品を持参してもらい、利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせた居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほぼバリアフリーだが、玄関や中庭へ出る所に段差がある。予め気をつけるよう声をかけることで、躓きもなく気をつけて歩行できている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護どんぐり倶楽部

作成日 平成28年4月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	重度化や終末期に関する内部研修を行うなどして全職員で共通理解を図ることを期待する。	これまでの終末期の利用者様の様子を伝達し、小規模におけるターミナルケアについて全職員で考える機会を持つよう努める。	①これまでの終末期の利用者様の過ごし方をまとめる。②職員に伝達する。③ターミナルケアについて皆で考え、話し合う。	1年
2	13	避難訓練への地域住民の参加を運営推進会議などで呼びかけ、災害時における地域との協力体制の構築を期待する。	近くの保育園や自治会に避難訓練参加を呼びかけ、反省会で今後の協力体制について検討するよう努める。	①近隣に避難訓練参加を呼びかける。②反省会を行い、協力体制について話し合う。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。